

積水ハウスが提案する「外構・植栽」

次の世代にも、 愛され続ける風景を。

季節ごとに豊かな表情を見せる樹々や草花。
格調の高さと温かさをあわせ持つ自然石の石積み。
決して画一的ではないのに佇まいをひと目見れば、
そのマンションがグランドメゾンだとわかる。
近ごろ、そんな声をよく耳にします。
今回のテーマは「外構・植栽」。
地域の環境に調和し、やがて街の財産、
また、街の記憶となる風景を
どんな想いでつくってきたのか。
これから新たに何を提案していくのか。
さまざまな角度から迫ります。



時代に先駆けた 外構・植栽への取り組み

「外構・植栽」は積水ハウスがさまざまな領域で時代に先駆けて取り組んでいるテーマのひとつです。そこで今回は、マンションはもちろんホテルなど住環境以外の視点も交えながら、多角的に考察していきたいと思えます。「一般的にマンションを建てたり街を開発するというものは、既存のものを「ゼロベース」にして新しいものを生み出す、ということですが、ややもすると、地域の景観を変えてしまうことにつながりかねません。そこで私たちは、新しく生み出すことで街全体をより良いものにしていく、という発想で過去の基準を見直し、志の高いマンションづくり、質の高いマンションブランド構築へと動き始めました。それがたしか2000年頃だったと思います。さまざまな方針が打ち出された中で注力したことのひとつが、外構と植栽です。外構に



自然石を用いる、植栽は地域の生態系に配慮して在来種を中心に通常の3〜5倍のボリュームにするなど、当時としては異例づくめでした（荒木）

■緑が心地よいアプローチ。都市型のマンションでありながら、敷地内には約6,600本の樹木を植えています。（GM池下ザ・タワー／愛知県）

▲丘の上の閑静な住宅街。外構や植栽だけでなく道路から建物までの距離を取ることで、美しい街並みに貢献しています。（GM伊勢山／神奈川県）

▶竣工時（上）とその後（下）をこうして比べると、経年美化がもたらす豊かさに改めて気付かされます。（GM萩の宮／福岡県）



talking member



●福田 翔
開発事業部 設計担当/
一級建築士
ステイホーム中にオンラインゲームの楽しさを知りました。旅行好きなので各地の「フェアフィールド・バイ・マリOTT」を訪ねたいですね。



●佐藤 大
開発事業部 設計担当/
一級建築士
リフレッシュの秘訣は音楽とウォーキング。「月平均1日12000歩」のペースが途切れないよう、デスクワークが多い日は速回りをしています。



●羽根田 祐秋
名古屋マンション事業部
技術室／一級建築士
海外旅行が好きなのでいつか再開できたら、スイスの温泉に行きたいと思っています。今は荒木さんに負けぬように、ゴルフの腕を磨いています。



●荒木 正隆
名古屋マンション事業部
販売営業室／宅地建物取引士
趣味はゴルフと料理です。ゴルフは奥が深く悪戦苦闘中。料理は子どもが大きくなったので、これまでは控えていた辛い系など幅を広げたいですね。

置かれていました。また、戸建住宅の設計を担当していた時も、建物だけでなく敷地全体の設計をお客様にご提案するようにと教えられたので、若い世代も外構や植栽がいかに重要かということはよく理解していると思います（福田）

近隣住民にも喜ばれる緑 手厚い管理もポイントに

「5本の樹」計画に基づく植栽にはどのような魅力があるのでしょうか。
「5本の樹」計画には3本は鳥のために、2本は蝶のために日本の在来種を、という想いが込められており、日本古来の豊かな生態系を育ててきた里山をお手本としています。単純に緑の量を増やすのではなく、植物と生き物の関係を見極めた植栽になっている点が、最大の魅力だと思います（羽根田）



■緑の眺めに心を癒されるエントランスロビー。植栽は、建物の中からも楽しむことができます。（GM仙川／東京都）

▲屋上庭園は住民の憩いの場。四季を通してきめの細かい管理をすることで、心地よい空間を生み出しています。（GM京都御池通／京都府）

▶クスノキなどの既存樹を残し、里山の風景を再現した中庭。地域の生態系ネットワークにも寄与しています。（GM杉並シーズン／東京都）



「今こそ自然環境への配慮や地域社会への

貢献は企業活動にとって欠かせない視点となっていますが、当時はそうした意識がまだ希薄な時代でした。環境共生や経年美化を踏まえた街並みづくりなど、当社の取り組みはかなり先駆的だったと思います（羽根田）

「5本の樹」計画は私が入社した時にはすでに浸透していて、新人研修でも非常に重きが



プレートの二次元コードを読み取ると、『5本の樹 野鳥ケータイ図鑑』につながります！

「私も「5本の樹」計画を通して、こんな実が成る木だからこんな鳥がやって来るんだ、この蝶はこの花が咲いているから来るんだ、という自然のつながりを初めて知りました（福田）

「ランドメゾン（以下、GM）にお住まいの方々にも、地域住民の方々にも、そんな風に、植栽を通じて四季を楽しんでいただいたり、自然に興味を持っていただけたらうれしいですね（荒木）

「最近、とくに利便性の高い街の中で緑が少なくなっているように思います。そうしたところでは、GMが完成した後のほうが明らかに街並みの雰囲気良くなっていると感じます（佐藤）

「近隣の住民の方から、GMができて地域に緑が増えたと、お礼のお手紙をいただいたことがあって、それはすくうれしかったですね。子どもが落ち葉を集めたり鳥に興味を持つようになった、というマンションの住民の方の声もよく耳にします（羽根田）

「以前ならマンションはいかに高層か、いかにボリュームのある立派な建物かということが着目されてきたが、今は、緑豊かな落ち着いた住環境かどうかを判断基準にされるお客様が増えている気がします。植栽が充実

「5本の樹」計画の植栽が草花や生き物に興味を持つきっかけになれば。

（羽根田）



した完成予想図を「ご覧いただきたくと非常に喜ばれますし、環境共生や経年美化といった外構・植栽に関する考え方をご説明する際も、高い関心と共感を持って聞いてくださいます」(荒木)

「名古屋市では10年ほど前に緑化地域制度が導入されて、敷地に対する緑化率が決められました。その比率を達成するために屋上緑化に取り組んだビルやマンションも街中には見受けられましたが、管理が行き届かず荒れているところもあつて、ちよつと残念だなと思います」(佐藤)

GMにも屋上庭園を設けたものがいくつかありますが丁寧な管理されていますね。

「住民の皆様の憩いの場となっています。じつはGMの植栽管理は非常に手間暇がかかるんです。自然に近い眺めとなるように落葉樹を植えたり、生態系に配慮して実の成る木を植えているので、頻繁に落ち葉などの掃除をしないとけません。日々の手入れもあるのですが管理員さんは大変だと思います」(荒木)

「でも、植物の変化や成長が楽しみという管理員さんも少なくないですし、自然が好きで住民の方や近隣の方と会話が弾むという声も聞きます」(羽根田)

「最近はいろんな工夫をしていますよね。樹木名のプレートに記載してある二次元コードをスマホなどで読み取るとその樹木の詳しい解説が出てきたり、そこにどんな鳥や蝶がや

大切なのは地元の方が毎年楽しみしている四季の風景やそこで育まれた時間。(荒木)



周辺の豊かな自然環境と調和するよう、あえて素朴な形の樹木を選んでいきます。(フェアフィールド・バイ・マリOTT・岐阜清流里山公園/岐阜県)

せん。なぜでしょうか。

「植栽に関しては、すべての樹を伐採して、一から計画を立てた方が当然スムーズなんです。でも、樹齢何十年という樹はやっぱり伐りにくいですし、桜の開花やもみじの紅葉など、その季節になると地元の皆様が毎年楽しみにされている景色や、そこで育まれてきた時間があります。ですから、街のシンボルとなっているような既存樹があれば、残すことを前提にした植栽を考えます」(荒木)

「その土地の風土や風景を大切にすると、いう意味では外構の石積みも同じです。名古屋なら恵那石や美濃石など、できるだけその地域で採れる石を使っています。いわば地産地消ですね。そこには、地域に貢献したいという想いも含まれています」(羽根田)

受賞歴一覧

- 2019年/「都市景観大賞」優秀賞 都市空間部門 (GM江古田の杜/東京都) 第39回「緑の都市賞」国土交通大臣賞 緑の事業活動部門 (GM江古田の杜/東京都)
- 2018年/「アジア都市景観賞」(福岡アイランドシティ照葉のまちづくり/福岡県)
- 2017年/第3回「京(みやこ)環境配慮建築物」奨励賞 (GM京都岡崎・GM京都御池通/京都府)
- 2012年/第14回「人間サイズのまちづくり賞」知事賞 まちなみ建築部門 (GM宝塚清荒神/兵庫県) 「緑の都市賞」奨励賞 緑の拠点づくり部門 (GM伊勢山/神奈川県)
- 2011年/「港区みどりの街づくり賞」(GM白金台/東京都) 「おおさか優良緑化賞」大阪府知事賞 (GM西九条BIO/大阪府)
- 2010年/「吹田市景観まちづくり賞」(GM千里山西/大阪府)
- 2009年/「緑の都市賞」国土交通大臣賞 緑の地域づくり部門 (GM東戸塚/神奈川県)
- 2008年/「目黒区みどりのまちなみ賞」(GM中目黒 THE CLASS/東京都)
- 2007年/第14回「愛知まちなみ建築賞」(GM東明町/愛知県)
- 2006年/「港区みどりの街づくり賞」(青山ザ・タワー/東京都) 「アジア・グリーン健康住宅区モデル賞」(アイランドシティ照葉のまち/福岡県) 「都市景観大賞」美しいまちなみ優秀賞 (アイランドシティ照葉のまち/福岡県)
- 2005年/「西宮市都市景観賞」(GM苦楽園桜町/兵庫県)
- 2004年/平成16年度「まちなみ住宅」100選 奨励賞 (GM白壁櫻明荘/愛知県)
- 2002年/平成14年度「まちなみ住宅」100選 優秀賞 (GM清水ケ岡/愛知県)
- 2000年/「緑のまちづくり賞」特別賞 (グランドメゾンシリーズ/福岡県)
- 1999年/「緑のまちづくり賞」スペースグリーン賞 (GM煙浜/福岡県)
- 1998年/「緑のまちづくり賞」プライベートグリーン賞 (GM西新/福岡県)
- 1997年/「緑のまちづくり賞」スペースグリーン賞 (シーサイドももちヴェルデコート/福岡県) 「福岡市都市景観賞」(シーサイドももちアクアコート/福岡県) 「緑のまちづくり賞」スペースグリーン賞 (シーサイドももちアクアコート/福岡県) 「緑のまちづくり賞」プライベートグリーン賞 (GM藤崎式番館/福岡県)
- 1995年/「福岡市都市景観賞」(シーサイドももちアルティコート・世界の建築家通りの企画/福岡県)

既存樹を残し 地域で採れた石を使う

管理をはじめ、既存樹や地産の石の活用など、GMの外構・植栽はひと手間を惜しみま



そうした取り組みが社会に広く認知され、高い評価を得ています。

「歳月を経るほどに風格が増し、美しい街並みとして次の時代に受け継がれていく、経年美化という考え方の外構や植栽を、業界や時代に先駆けてつくってきた。それは誇りでも良いことなのかなと思っています」(荒木)

「そうですね。たまに昔の物件を訪れるんですが、成長した樹木や深い味わいが出てきた石積みを見て、いい街の風景になったな、取り組んで良かったなと、しみじみ思うことがあります。よく知らないところを歩いていて、きれいな街並みだなと思ったら当社の物件だった、なんていうことも結構あります」(羽根田)

「これまでに当社が手掛けた景観や街並みに関するさまざまな作品を改めて見ると、地域や自然と共生する住環境づくり・街づくりを、マンションだけではなく全社的に取り組んできたことを実感します。たとえば、開発事業部が地方創生事業として立ち上げた『Trip Base 道の駅プロジェクト』も、そのひとつです」(佐藤)

地域の自然環境、地域の経済との共生

「Trip Base 道の駅プロジェクト」について、お聞かせください。



「5本の樹」計画に基づいた植栽は、ホテルの中からもその土地ならではの四季折々の景色を楽しめるよう設計しています。(フェアフィールド・バイ・マリOTT・岐阜清流里山公園/岐阜県)



「私たちはこれまでいくつかのホテル系開発事業を手がけてきましたが、地域貢献として新たに何ができるだろう、というのがそもそも出発点です。そこで着目したのが、全国各地にある道の駅です。それぞれいろんな特徴を持っていて、メディアでもクロージアアップされるなど賑わっているところも多いのですが、基本的には泊まることができないんです。宿泊施設があれば、道の駅を拠点に地域を巡る旅を提案することができると、自治体やパートナー企業と連携し、地方創生事業として立ち上げたのが『Trip Base 道の駅プロジェクト』です」(佐藤)

「宿泊施設として道の駅の近くに設けたのが、『フェアフィールド・バイ・マリOTT』というホテルで、マリOTT・インターナショナルが運営しています。敷地計画や建物の建設は積水ハウスが行っており、全社的なノウハウを活かしながら、私も設計に携わっています」(福田)

外構・植栽に関してはどのような工夫をされているのでしょうか。

「現在、複数のホテルの計画を同時並行で進めているのですが、自然に思われた場所が多いので、そうした周辺環境をいかに外構・植栽に取り込むのか、建物の中から見たときに窓外の風景の豊かさをいかに感じるかができるようなものか、という2点を共通テ



- ▲自然石と水辺を組み合わせて、里山らしい風景に。子どもたちの好奇心を喚起する遊び場となっています。(GM西九条BIO/大阪府)
- ◆地域の人々に親しまれてきた景観に馴染むよう、既存樹を残すことを前提に植栽計画を立てました。(GM浄水ガーデンシティ フォレストゲート/福岡県)
- ◆多方面から高い評価をいただいているGM。その中から、景観や街づくりに関するものをピックアップしました。



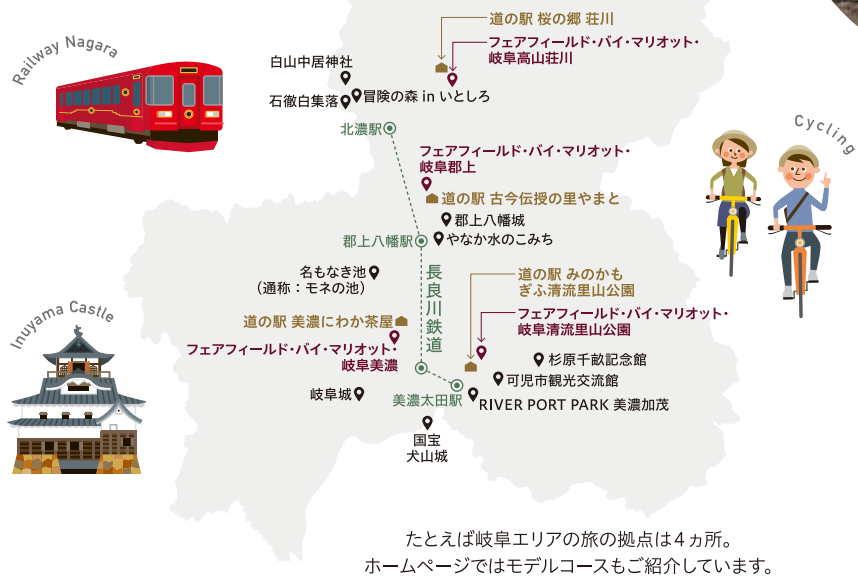
訪れる方々に少しでも その土地ならではの魅力を伝えたい。(佐藤)

TRIP BASE STYLE

泊まる。動く。体験する。

TRIP BASE 道の駅プロジェクト

道の駅から、道の駅へ。
先を急がず、地域の知られざる魅力を
ゆっくり味わい尽くす。
そんな未知の旅へ出かけてみませんか。



たとえば岐阜エリアの旅の拠点は4カ所。
ホームページではモデルコースをご紹介します。



「道の駅」を拠点にした
新しい旅のスタイル

全国各地に点在する「道の駅」やその周辺には、まだ知られていない食や暮らしなどの文化があります。自動車やバイク、自転車などで各地の「道の駅」を渡り歩きながら、その地域ならではの魅力を体験・発見する旅の提案。それが「TRIP BASE STYLE」です。

詳しくはこちらへ
<https://tripbasestyle.com>



宿泊特化型ホテル
「フェアフィールド・バイ・マリオット」

シンプルでゆったりくつろげる空間と、温かいおもてなし。宿泊は各地の「道の駅」に近接したマリオット・インターナショナルのホテルブランド「フェアフィールド・バイ・マリオット」へ。食事やお土産などのお買い物は地域のお店をご利用いただき、地元の方々とのふれあいをお楽しみください。

宿泊のご案内
<https://tripbasestyle.com/hotels/>



フェアフィールド・バイ・マリオット・三重御浜

フェアフィールド・バイ・マリオット・栃木宇都宮

フェアフィールド・バイ・マリオット

～ファーストステージ開業一覧～

セカンドステージではエリアをさらに拡大する予定です。

【凡例】

都道府県

- 道の駅
- ホテル名
- 開業日

岐阜	
美濃	●美濃にわか茶屋 ●フェアフィールド・バイ・マリオット・岐阜美濃 ●2020.10.6
郡上	●古今伝授の里やまと ●フェアフィールド・バイ・マリオット・岐阜郡上 ●2020.10.9
高山	●桜の郷 莊川 ●フェアフィールド・バイ・マリオット・岐阜高山莊川 ●2021.夏(予定)
美濃加茂	●みのかも ●フェアフィールド・バイ・マリオット・岐阜清流里山公園 ●2020.10.6
京都・奈良	
宮津	●海の京都 宮津 ●フェアフィールド・バイ・マリオット・京都宮津 ●2020.12.15
京丹波	●京丹波 味夢の里 ●フェアフィールド・バイ・マリオット・京都京丹波 ●2020.10.8
南山城	●お茶の京都 みなみやましろ村 ●フェアフィールド・バイ・マリオット・京都みなみやましろ ●2021.3.12
天理	●なら歴史芸術文化村 ●フェアフィールド・バイ・マリオット・奈良天理 ●2022.春(予定)

和歌山・三重	
すさみ	●すさみ ●フェアフィールド・バイ・マリオット・和歌山すさみ ●2021.春(予定)
串本	●くしもと橋杭岩 ●フェアフィールド・バイ・マリオット・和歌山串本 ●2021.春(予定)
御浜	●パーク七里御浜 ●フェアフィールド・バイ・マリオット・三重御浜 ●2020.10.12
大台	●奥伊勢おおい ●フェアフィールド・バイ・マリオット・三重おおい ●2021.3.9
栃木	
宇都宮	●うつのみやろまんちっく村 ●フェアフィールド・バイ・マリオット・栃木宇都宮 ●2020.10.7
茂木	●もてぎ ●フェアフィールド・バイ・マリオット・栃木もてぎ ●2020.11.20
日光	●日光 ●フェアフィールド・バイ・マリオット・栃木日光 ●2021.3.21

「運営を担うマリオットさん側もその点には非常にこだわっておられて、エレベーターホールやロビーなどの建物の中から見える風景や樹木の配置などについても、活発に意見交換をしています」(佐藤)

「先日、フェアフィールド・バイ・マリオット・岐阜清流里山公園」に視察に行ったんですが、とても良い雰囲気でした。植栽が「5本の樹」計画」に基づく里山のイメージで、周辺の豊かな自然も借景になっていて、積水ハウスらしいホテルだなと思いました」(羽根田)

「私は今回の仕事でエクステリアデザイナーの方と一しょに樹木屋さんに行ったのです

「これはとても勉強になりました。一般的な住宅では、スツとしたきれいな樹形のものを選ぶことが多いのですが、あえて途中から横に広がっていくような、かなり素朴な樹形のものを選びました。本当にこれでもいいのかなと不安になったのですが(笑)、実際に植えてみると、ホテル周辺の里山の風景にとっても自然に馴染みました」(福田)

「GMのように既存樹を活かしたり、その土地の石を使ったりすることもあるんですか」(荒木)

「やはり、訪れる方々に少しでもその土地ならではの魅力を感じていただきたいので、たとえば「フェアフィールド・バイ・マリオット・三重

「地域自然环境や街並みとの共生という

今後どのようなことに取り組みていきたいと思いますか。」

「地域の自然環境や街並みとの共生という

「継続を力に
未来に続く豊かな風景を

「地域の自然環境や街並みとの共生という

ホテルの外に広がる自然と外構・植栽を
ひとつの風景として楽しんでいただければ。(福田)



▲(上)ラウンジの前庭に観光スポットにもなっている浜辺の石をあしらって、この地域の魅力を伝えていきます。
(フェアフィールド・バイ・マリオット・三重御浜/三重県)

▲(下)官民一体となって開発されたこの街では、緑豊かな住環境づくりがコミュニティの醸成にもつながっています。
(アイランドシティ照葉のまち/福岡県)



「5本の樹」計画」の優れたコンセプトを今後も継続していきたいというのが私の率直な想いです。20年後、30年後のGMの佇まいや街の風景を、お住まいの方や地域の方々を楽しみにしてほしいですし、私自身、とても楽しみにしています」(羽根田)

「昔は、立派な庭で樹々や草花を楽しめるのは大きなお屋敷に住むごく一部の方々だけでした。今、そうした楽しみが少し身近なものとして感じられるようになったとすれば、私たちの外構・植栽の取り組みが実を結びつつあるのかな、と思います。緑豊かな住環境が日本のスタンダードとなって、海外の方からも、日本の街並みはきれいだ、と思ってくれているようになったらうれしいですね」(福田)

「ホテルはインテリアが注目されがちですが、道の駅のホテルでは、外構や植栽、そして豊かな自然の借景も含めて、訪れた人の心に残る、旅の喜びが増えるような風景をつくってきたいと思います」(佐藤)

「岐阜や三重の「フェアフィールド・バイ・マリオット」は桜に恵まれた場所が多く、春にはいろいろな客室から桜並木を眺めることができます。ホテルの外に広がる景色と、私たちが手がけた植栽を、ひとつの風景として楽しんでいただければと思います」(福田)

*

長い歲月の中で深みや美しさが増してゆく外構・植栽は、その街の財産、その街の記憶となることを理想とするGMの象徴と言っても過言ではありません。次の世代へと愛され続ける風景をつくる。その志を、お住まいのGMで、道の駅を巡る旅で、ぜひ体験してください。